

第4回下川町総合計画審議会（産業経済部会）会議録

- 日時 平成29年9月26日（火） 18時30分
- 場所 総合福祉センター「ハピネス」
- 出席者 審議委員：山崎委員、麻生委員、及川委員、中田委員、
山田委員、三津橋委員

〈環境未来都市推進課所管事務事業〉

出席者（町）：田村課長、平野主幹、亀山主幹、高原主査、和田主事、
佐藤主事、浪岡主事、遠藤事務補

▽施策項目「商工業」

・事業名「中小企業振興事業」

- 町：事務事業内容説明
- 委員：人に対する投資が必要とは具体的にはどのようなことを想定しているのか。
- 町：後継者がいなくて事業承継できずに廃業する企業もあり、研修にも支援が出来るので若年層を育てていく。
- 委員：若年層を育てるのは良いことだと思うが、セミナーの質が良くない。講師を吟味して選んだ方が良い。
- 委員：セミナーはあるのか。
- 町：町主催ではない。
- 委員：旭川や札幌で開催されるセミナーも含まれるのか。
- 町：そのとおり。
- 委員：研修は内容が決められているのか。決まった内容でなければ対象にはならないのか。
- 町：個人の資格取得ではなく会社としての能力を高める研修の参加が対象。個人の資格取得も会社として必要になる場合もある。
会社で費用を負担する場合は、対象にしたい。今後、中小企業の支援制度を見直したい。

▽施策項目「商工業」

・事業名「地域商業再生事業（宿泊研修交流施設）」

町：事務事業内容説明

委員：飲食店関係者による会議があったという話を聞いた。

町：宿泊施設では夕食を提供する形になっていないので町内の飲食店で食べていただく予定である。商工会が中心に協力いただいている。これから夕食を提案するパンフレットのようなものも考えている。

委員：農村活性化センターでは、個人で宿泊する人がいると夜警が必要なので、使用料では採算が取れていない。町全体で連携を取って行けば良いと思う。

町：宿泊が出来ずに町外に流れてしまっている。地域の中にいろんなタイプの施設があるので、タイプに合わせた提案をしていきたい。

委員：指定管理は使用料で運営可能か。

町：運営出来ると考えている。

委員：町への納付の考え方はあるのか。

町：考え方はあり既に決まっている。

委員：通学路に、まちおこしセンター、宿泊研修交流施設、バスターミナルがあり、道道と町道が交差する場所で交通量は確実に増えるはず。横断歩道、信号の設置は考えていないのか。

町：今後考えていく必要がある。

・まちおこしセンターについて

町：子供達のたまり場になっている。今までは、たまり場が公民館で教育委員会の目の届く位置にあったが、まちおこしセンターではどうなのか。

町：まちおこしセンターは見守りの施設ではないが、まちおこしセンターの管理は観光協会にお願いしている。

町：エントランスのテレビでゲームをしている子供を見かける。子供の健康への影響や長時間の占領は公共のものとしてふさわしくな

いので気になっている。

町 : テレビの取り合いで子供達が喧嘩したという話があったが、何でも制限かけるのは問題がある。節度良く使用してもらいたい。今後問題があるようであれば考えていく。

町 : 小学生が遊び場として使用しているのは施設の目的として合わないのではないか。子供の声がうるさいということで小学生の居場所が制限されていると聞いた。

町 : 入居している事業者が商談時に、苦情があった。教育委員会を通して学校にお願いした。その後、問題は出ていないので、何かあり次第、その都度対処していく。

▽施策項目「商工業」

・事業名「都市・企業との経済交流」

町 : 事務事業内容説明
意見等特になし

▽施策項目「観光創造」

・事業名「観光振興事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 観光振興計画の策定というのは何年度に何名というのは決まっているのか。

町 : 細かいことは決まっていない。これまでは、観光振興計画や観光をどのようにしていくかという計画がなかった。大きなビジョンを皆さんと共有して、そこから細かい事業をつくっていききたい。

委員 : 計画策定の委員会などをつくっていくと思うが、どういった人に声をかける予定なのか。

町 : 観光協会で検討していただいている。それによって呼びかける人は変わってくる。ビジョンが決まり次第、連携するような人に声をかけて委員会をつくっていききたい。

委員 : 観光だけではなく、農業でもそうだが、町民がどんな客に来てほ

しいかが大事。観光協会が提案するものも必要だが、町民との考えが一致するような委員会メンバーの選定が大事だと思う。

町 : 町民のワークショップを何度か行っているが、色んな人の意見を聞くことが大事なので、広く周知して意見を拾えるような体制を作っていきたい。

委員 : 前年度の事業費の内訳はどうなっているのか。

町 : イベントの企画運営に対する支援と観光協会に対する支援で大体半分である。

委員 : 観光協会はNPO法人という形態が良いのか。組織形態を根本から考えていった方が良い。

町 : 企画で集まるメンバーは同じようなメンバーで、うどん祭り、アイスクャンドルミュージアムも同じようなメンバーになっている。

委員 : 企画は新しい案を考えなくてはならないが、新しい案が出てもなかなかうまくいかず、結局は例年どおりになる。人が変われば他の発想も出るが、やってくれる人は出てこない。もっと皆で協力しあえたらイベントは楽になるし、集客も見込める。

委員 : 今、フェスが流行っている。同じ会場内でもブロック分けされて、好きなところに行ける。町民が慣れてきている部分がある。新しい刺激があった方が良い。イベントを他町村に渡すのもありなのでは。実行委員も楽ができる。

▽施策項目「観光創造」

・事業名「五味温泉施設管理事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 効率的な修繕の計画はあるのか。

町 : 前年度、別館の修繕の設計を行った。宿泊研修交流施設でシングル部屋が増えるので、ビジネス客の流れを考慮して、どのタイミングで大きい修繕をするかを見極めていく。

委員 : どこが何年もつか把握しているか。

- 町 : ある程度は把握しているが、老朽化に伴い突発的に壊れてしまう箇所がある。
- 委員 : 専門家に頼んでどこがどれぐらい持つか、どこを治すのにはどれぐらいかかるのかということを把握した方が良い。
- 委員 : 若者が減少しているのが気になる。何か原因があるのか。
- 委員 : 結婚したら行くことがなくなった。若者の需要を増やすのか、高齢者の需要を増やすのか、どちらも利用料は同じ。日帰り客を増やしたいなら行きたいけど行けない人を探す方が早い。バス料金はいくらか。
- 町 : 乗り合いタクシーやコミュニティバスを利用しても安価な値段で行ける。
- 町 : コミュニティバスの利便性は高まった。交通手段は整っている。
- 委員 : 運営している人達が内部でしか情報共有をしない。外部の情報は入っていない。
- 町 : 温泉の泉質は非常に良い。珍しい温泉なので PR が大事。情報の発信をやっていった方が良いと考える。
- 委員 : 食事に改善の余地はないのか。もっとメニューに種類が欲しい。

▽施策項目「観光創造」

・事業名「五味温泉体験の森管理事業」

- 町 : 事務事業内容説明
- 委員 : 体験ツアーの人数しか把握出来ないのか。それ以外の人数はカウント出来ないのか。
- 町 : ずっと体験の森にいても出来ないのが難しい。
- 委員 : 廃墟のような建物がある。管理もしていないようだが、壊せないのか。

▽施策項目「観光創造」

・事業名「地域間交流施設管理業務」

- 町 : 事務事業内容説明

委員：NPO法人森の生活と朝食プロジェクトをしている。町外観光客や移住者の入り口になっているなか、A棟に管理室があり管理者がいる配置が良くない。企画の中で地域間交流施設の駐車場でイベントをしたいという話があり、管理棟は独立させるべきだと思う。

町：B棟で宿泊していただき、A棟はパーティーや食事、研修をしたりする場所。使用方法が変わってきて年数も経っているので大きく改修も考えていく。

▽施策項目「観光創造」

・事業名「環境共生型モデル住宅」

町：事務事業内容説明

意見等特になし

▽施策項目「観光創造」

・事業名「産業クラスター推進部」

町：事務事業内容説明

委員：スタッフが増える予定はあるのか。

町：最近人材確保が難しい状況であったが、1名入り、4月にも1名入る予定。

委員：産業クラスターで不動産をやるのか。

町：その予定である。部長が宅建資格を取得したと聞いている。

委員：評価調書の実績の部分が空白なのはなぜか。

町：数値で示すものがなかった。

町：数値だけで単純比較できるようなものではない。

委員：ここでいうインキュベーション機能とは何か。

町：企業家の育成、新しいビジネスの支援を指す。

委員：著しく効果のあった、良かった事業は何か。

町：企業化促進事業への支援を行ってきた部分になる。

委員：タウンプロモーション推進部が、環境未来都市として、町の政策と

してやっていけるようになってきた中で、クラスターの役割を見直して再編成する良いタイミングなのではないか。

町 : 今まで培ってきたものを次にどう継承していくか、ということもあるが、入り口の部分と来た方が企業化するときはどう支援していくか。まずは今までの考え方、人材確保を考えていかななくてはならない。考え方を固めていかななくてはならない。

▽施策項目「地域資源活用・新産業創造」

・事業名「総合産業活性化事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 予算が高額だが内訳はどうなっているのか。

町 : タウンプロモーション推進部の人件費、事業の費用で増えている。

委員 : 労働力不足、人材不足は外から移住してきた人に紹介するということなのか。

町 : 直接斡旋することは出来ない。企業からどういう人材が何名必要かを聞いてホームページに載せる、働き手は時間帯と職種をホームページに登録することで人材がマッチしていく。

委員 : 移住者はある程度目的をもって来ていると思うが、どうなのか。

町 : 下川町に移住してきた家族で人材バンクを見て就職した方もいる。

委員 : 町民への周知はどうなのか。どれだけの人が必要としているのか。農家等の特殊な時間帯に人手が必要な企業もあり、その時間帯を求めている人もいる。もう少し町民周知をしていった方が良い。

町 : 農家で働きたい人限定のイベントを企画することも考えていく。

委員 : 続けていくことが大事。人材バンクの広告の発行はどこなのか。1年に1回なのか。

町 : 発行はタウンプロモーション推進部である。今のところ1回である。

委員 : 情報告知端末はもっと有効活用出来ないのか。

町 : 情報を全て入れるのは難しい。画面の大きさは限られているので、多くても3ページが限度だと思う。特に必要なものを載せるという方法はある。

委員 : 広報しもかわに求人広告をはさめるのはどうか。毎月ある求人を載せる。

町 : 定期的に出すのか、特に必要な求人に限定して出すのかを考えていく。毎回同じ求人になるのも問題である。

委員 : 広報しもかわに毎月の求人をコーナー化するのはどうか。下川の人を頼って就職する人が多い。若い人は一度町を出て求人があれば戻って来たい人も多い。家族や町民が求人の情報を持っていれば紹介も出来る。

委員 : 紙一枚で解決できるものがあるならやっていくべき。

委員 : シモカワ暮らし（都会人が憧れる生活様式）とは、これから構築していく予定だと思うが、どのようなイメージをしているのか。

町 : 下川町の暮らしとは、森が近かったり、おいしい食べ物屋さんがあったり、幅広い暮らしを構築する。調査を行っていく。

▽施策項目「地域資源活用・新産業創造」

・事業名「環境未来都市推進事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : エネルギー完全自給は出来ないのではないか。

町 : 熱や電気を下川町で自給するというのが、環境未来都市計画の最終的な目標である。

委員 : 森林バイオマスの熱電併給事業の説明会に参加したが、経緯を見てもこの言葉に騙されて町に来る人もいるのではないかと。町民は理解しているが、夢を抱いて来ている人もいる。そういう人に対して、説明してくれる人がいるなら良いが、そうでない場合もある。他の言い方はないのか。

町 : 環境未来都市計画を進めていくうえで、高い目標を掲げている。林産業で言えば森林総合産業の構築、もう一つは再生可能エネルギーによるエネルギー化、超高齢化に対する社会システムの三つの柱で環境未来都市を目指していくということになっている。

委員 : 完全自給というのはカロリーベースということではなく本当に完

全自給なのか。二酸化炭素と同じような考え方で、排出するが吸収するからゼロという考え方なのか。

町：排出するが吸収するからゼロという考え方の方が近い。今、灯油を使用している人に強制するつもりはない。

委員：明確に自治体が打ち出すのも大事で、行政に任せて、行政がやってくれるものではなく、理想を持って来た一人ひとりが色々な問題を皆で知恵を出し合って目標を達成していく姿勢が大事だと思う。そのためにも明確なゴールを示すことは効果的である。

▽施策項目「地域資源活用・新産業創造」

・事業名「一の橋バイオビレッジ創造事業」

町：事務事業内容説明

委員：トゲなしタラの芽の生育状況はどうか。

町：今は、畑に植えて苗が育っている状態である。もともとは町有林から採取していたものを研究機関で苗木のクローンをたくさん作っている。まだ小さいのでトゲはあるが、これから大きくなるにつれてトゲがなくなると思う。実際にタラの芽として出荷できるのは、再来年からは出荷できる生産体制を構築していけると思う。

委員：集住化住宅の入居率はどれぐらいか。

町：退去しても、新たに募集すると集まる。常に満室である。

委員：年数も経ってきたので、色々な方が使うドアの取手等はどういう状況か。

町：建築時に高断熱と高気密、地域材をたくさん使用するという特性を持たせた関係で、ドアにも木材を使用していて非常に重たく、それに耐久性が合わず、不具合が生じることもある。その都度修繕している。

委員：地域おこし協力隊に何でも任せているのが心配である。様々な事業の管理をお願いしている。

町：地域おこし協力隊とNPO地域おこし協力隊があり、管理事業はNPOの地域おこし協力隊に委託している。そのスタッフとして

地域おこし協力隊が携わることもある。

委員：NPO地域おこし協力隊は何人いるか。

町：代表が1名、フルタイムで来ている方が4名、パートが1名である。

委員：資金はどこから出ているのか。

町：主に施設の管理と笹の加工事業から資金調達をしている。

委員：一の橋に泊まりに来ていただいているお客さんが結構いると思うが、あまり一の橋のことを知らずに帰っていく人もいる。宿泊施設を地域間交流施設のように指定管理で事業などをすることは出来ないのか。

町：指定管理は可能である。将来的には考えているが、1棟住宅として使用しているので、2棟体制になった時点でお願いする予定である。

▽施策項目「地域資源活用・新産業創造」

・事業名「特用林産物栽培研究所運営事業」

町：事務事業内容説明

委員：菌床は何年使えるのか。

町：菌床の寿命は6ヶ月である。

委員：捨てる菌床はどうしているのか。

町：土壌改良施設で生ごみと合わせて堆肥にしている。

▽施策項目「地域資源活用・新産業創造」

・事業名「集落ネットワーク活性化事業」

町：事務事業内容説明

委員：先進地視察の富山市とはどういったものを視察したのか。

町：富山市と金沢市の2か所に行き、富山市は主にコンパクトシティや地域商店街を活性化している取り組みがある。そこは空き家、空き店舗を使った活用をしており、そういった視察をしてきた。金沢市は元お寺を地域の住民で出資して福祉法人が入り障がい者やお年寄りが集える場所をつくるために温泉を掘って、色々な方が集まって食事出来るような施設を視察してきた。

委員 : 公区のアンケートをやったが、その後の結果の分析やフィードバックはどうなっているのか。公区長に報告しているのか。

町 : 役員や主要メンバーが集まる場所でフィードバックは行っている。

委員 : 公区によってその後の扱いが違う。全戸配布の回覧で回しているところもあれば、総会時に話をしているところもあり、役員の中でとどめている公区もある。

委員 : アンケートの集計結果は回覧で配布していたが、公区の課題には入り込めていなかった。勿体ない。

▽その他、全体を通して。

委員 : 総合産業活性化事業の移住関係でホームページやパンフレットにマイナス面は記載できないのか。移住者は不安でその後のフォローも大変である。

町 : 町の方針やタウンプロモーションの方針もある。住んでみてどうかを知ってほしいというメンバーもいる。